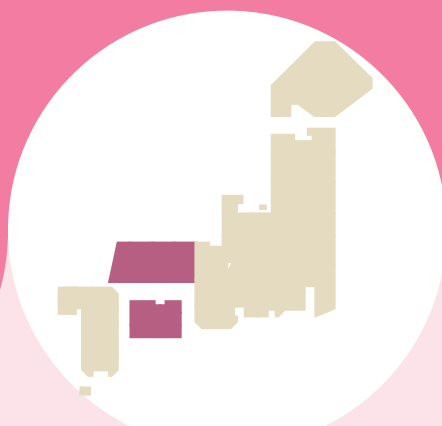
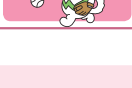
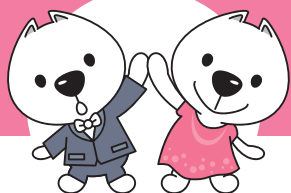


中国 四国



鳥取県	中山 誠さん		ダンススポーツ	54
島根県	岩佐光恵さん		民謡	55
	土屋 淳さん		サッカー	56
岡山県	井上隆治さん		ペタンク	57
	江口明彦さん		水泳	58
山口県	梧桐節男さん		ソフトボール	59
	松原利広さん		剣道	60
徳島県	松山敏明さん		ソフトボール	61
	板東光彦さん		オリエンテーリング	62
香川県	三好邦夫さん		卓球	63
	柴田郁夫さん		ソフトバレーボール	64
高知県	松本祐一郎さん		弓道	65
岡山市	岡 達也さん		合気道	66
広島市	川中武範さん		ソフトボール	67



ダンススポーツ 「鳥取県」(選手)

なかやま

中山

まこと

誠さん

66歳

● 参加歴：1 回目

チームメイトが最高齢者賞、副賞でマグロ1キロ獲得！

私は平素、鳥取県ダンススポーツ連盟事務局長、また日本ダンススポーツ連盟普及指導員として、社交ダンスの普及に携わっています。年数回、中国・四国の大会に出場していますが、今回はじめてねんりんピックに参加しました。

鳥取県ダンススポーツ連盟は平成26年に発足し、当初は会員も10名程度でしたが、現在は100名を超える組織となりました。

社交ダンスはジュニアからシニアまで幅広い年齢層で楽しめるスポーツです。連盟は、県民の皆様の健康増進のため、また生涯の生き甲斐としてダンススポーツを楽しめるよう、いろいろな活動をしており、普及競技会、ダンス交流会、ジュニアダンス、車いすダンス、数年前からは高等専門学校および高等学校の体育授業で社交ダンスをしています。

今回の和歌山大会には、団体戦のワルツ、タンゴ、チャチャチャ、ルンバに、それぞれ男女2名1組、合計8名、個人戦4種目に全員が参加しました。

今回のメンバーは上は84歳、下は64歳と親子ほどの年齢差があり、初対面の方もおりましたが、8日に前泊した紀美野町のかじか荘で温泉に浸かりながらダンス談議に花を咲かせ、県団結会では他の競技参加者とも交流し、酒を飲みかわしながら大いに健闘を誓い合いました。

翌9日、青空の下、開催された総合開会式では、次々と繰り広げられる色鮮やかなアトラクションに心が高揚し、学生時代に参加したサッカー大会を思い出し、学生時代に戻ったような気がしました。

10日、ダンススポーツ交流大会は那智勝浦町

体育文化会館で開催されました。団体戦は残念ながら1次予選敗退となりましたが、個人戦ラテン種目のルンバでは私の組が4次予選(155組中25位)まで進出しました。鳥取県代表がここまで進んだのははじめてのことでした。また、米子市の国頭純子さん(84歳)が参加者最高齢者賞に選ばれ、勝浦町から副賞としてマグロ1キロが、倉吉市の大田景子さん(82歳)には高齢者賞としてマグロ500グラムが贈呈されました。鳥取県の長寿選手ここにありと、参加者全員にアピールできました。県民として競技に入賞する以上に喜ばしく、私も見習って生涯現役、死ぬまで(マグロをゲットするまで)ダンスをするぞ、と心新たに思いました。

今後も鳥取県のダンススポーツの普及に努力していきたいと思います。

最後に、大会期間中お世話していただいた県社協の皆さんに心より感謝申し上げます。



パートナーの島田さんと会場で記念撮影。

民謡 「安来節保存会」(選手)

いわさみつえ

岩佐光恵さん

68歳

● 参加歴：1回目



島根県を代表する安来節で、最優秀賞を獲得

安来節は島根県を代表する民謡です。ねんりんピック和歌山大会には、安来節保存会を経て所属する本部道場から推薦を受け、私が唄い手、伴奏は絃が主人の岩佐勝雄、鼓は吉野和夫さんの3名で参加しました。

総合開会式の選手団紹介者として主人が指名されたため、大会前の県旗授与式に民謡の3人も出席し、丸山知事の前で大会時に唄う安来節を披露しました。

大会規定により3分で唄える歌詞をと思い、選んだのは、日本遺産となった石見神楽と安来節を合わせた「島根見どころ荒波しぶき神楽太鼓に安来節」、もう1本は出雲地方では10月は神在月になることを紹介する「安来節聞こし召さんと八百万の神の十神お山に集まり給うは他国の神無月」でした。

宿泊したホテルでは愛知県と鹿児島県の方と相部屋で、民謡の話や地元での日頃の活動や活躍などの話を聞き、大いに刺激を受け、大変貴重な出会いとなりました。大会で、全国の民謡を生で聴くことができるのがとても楽しみでした。

当日、会場で顔見知りの安来節保存会和歌山支部の方々と出会い、不安な気持ちも和らぎました。私の出番は40番、頼れる心強い2人の伴奏者と共に、「安来節を全国の人にぜひ聴いてもらいたい」という気持ちだけで、気負いなく一生懸命唄うことができました。

成績発表では、はじめに審査員特別賞の3名が発表されまし

た。もしかしてという思いもむなしく、名前には呼ばれず、次の優秀賞の2名でも呼ばれませんでした。

最後に発表される最優秀賞に安来節が選ばれるなどとは思っていませんでしたから、「最優秀賞は40番。島根県の安来節、岩佐光恵さん」とのアナウンスに一瞬、耳を疑い、伴奏者の2人とお互いに顔を見合わせ、信じられない気持ちでとにかくビックリ、しばし呆然としました。壇上へ案内され、表彰状をいただき、金メダルをかけていただいたときには、大きな喜びで胸が一杯になり、言葉もありませんでした。

最優秀賞を受けた安来節は、唄・絃・鼓の3人が揃ってひとつになってこそ、聴いていただく人から評価を得られるものだと思われ、今後安来節の一層の普及に少しでもお役に立てよう頑張りたいと思いました。

この度のねんりんピックに参加して、高齢化社会の続く今日、全国から集う参加者の皆様がそれぞれ自信にあふれる姿を見て、私もその中の1人として前向きな気持ちを忘れず、元気に頑張っていこうと思いました。



島根県が誇る「安来節」を披露。奏者と3人で心を一つに。

サ ッ カ ー 「島根シニア^{オー}60」(監督兼選手)つち や
土屋じゅん
淳さん

66 歳

● 参加歴：3 回目

少ない選手数ながら、念願のブロック優勝を果たす

私自身、ねんりんピックは3回目となりますが、今回は監督兼選手ということでやや緊張して大会に臨みました。

島根県にサッカー^{オー}60のチームは、東部に2チーム、西部に1チームしかありません。本県は東西に230キロと細長く、交流する機会は限られているため、ねんりんピックには東部(松江と出雲)と西部で交互に出場しています。今回は東部の順番でしたが、積極的な参加者は少なく、最終的には15名となりました。有志数名が時々集まる程度で、全員での練習はできませんでしたが、それでも過去の^{オー}50、^{オー}60の大会で一緒にプレーした仲間もいたので、何とかチームとして体を成すことができました。

今大会は少人数ながらも、ブロック優勝を目標に試合に臨みました。メンバーは違いますが、6月に静岡県藤枝市で開催された全日本^{オー}60の大会に、中国地区の代表となって参加したことが自信となりました。

初戦はサッカーの盛んな横浜市と対戦しました。苦戦を覚悟しましたが、ロングシュートで先制し、ペースをつかみました。後半1点を失い引き分けましたが、目標に向かって一歩前進できました。2日目に対戦した高知県、和歌山県Bとの試合も先制点を生かして勝ち切り、2勝1分けで念願の金メダルを獲得できました。

会場の上富田スポーツセンターでは、よく整備されたピッチとスタッフの方々のきめ細かいご対応のおかげで、気持ちよくプレーできました。

また、会場では紀州茶がゆをふるまっていたり、健康づくり教室では骨密度や血圧の結果に一喜一憂したりと楽しい時間を過ごしました。

今回、私たち出雲市のメンバー6名は諸事情により、県の選手団と別行動で和歌山へ車で向かいました。堺市で前泊し、翌朝開会式会場に到着。華やかな開会式のあと、坂本冬美さんも登場したアトラクションが素晴らしく、見入ってしまいました。田辺市の宿泊地は太平洋に面した18階建てのリゾートホテルで、素晴らしい眺めと高級ミカンの試食に満足しました。

島根県の^{オー}60は一部の者は熱心に活動していますが、全体的に見れば活発ではありません。練習に参加しやすい環境の整備、子どもや若者との世代間交流の活性化、大会運営への積極的な参加などの必要性を改めて感じました。

最後になりましたが、和歌山県の皆様には温かいおもてなしをしていただき、ありがとうございました。また、お世話いただいた島根県社協の方にも御礼申し上げます。



えんじ色の鮮やかなユニフォームに身を包み、いざ決勝戦。(後列左から5人目)



ペタンク 「備前クラブ」(監督兼選手)

いのうたかはる

井上隆治さん

62歳

● 参加歴：1回目

ねんりんピックで優勝できた感動は一生の宝物

私は今回、ねんりんピック初参加でした。大会までに説明会が2度ありましたが、周到的な準備、参加者への手厚い助成・配慮など、驚きの連続でした。国を挙げての一大行事であることがわかりました。そして、この大会で「優勝」できた感動は、一生の宝物になりました。

半年以上前、岡山県の代表を決める大会に、備前クラブで挑戦しました。予選リーグ（上位2チームが決勝トーナメントへ）では2勝1敗1分でギリギリの2位通過でした。準決勝では時間制限による最終メース、相手リードの絶体絶命で投げた私の最後の1球が奇跡の同点ポイントとなり、延長メースで逆転勝利。その勢いで決勝戦にも勝利し、念願の代表権を得ることができました。「悲願の日本一へ練習」というタイトルで地元新聞の地域版に紹介記事が掲載されると、地区の方から「すごいなあ。頑張って！」と激励の声をいただき、本大会に向けての練習に一層気合が入りました。

待ちに待った大会。総合開会式は「あふれる情熱 はじける笑顔」のスローガン通りでした。入場時、地元の児童が笑顔で手を振って迎えてくれました。小学生から大人まで3300人による創作アトラクションに「すごい！素晴らしい！」と何度も声を上げました。「この歓迎に応えるためにも、大会運営に携わっているすべての方に感謝して競技をしなければ」という思いが強くなりました。

競技1日目、今までに経験の

ない桁違いの準備と運営がなされていました。4チームごとにテント・長机・椅子・歓迎のぼり旗があり、コートごとに審判・記録員・得点板があり、接待テントには飲みものが用意され、本当に至れり尽くせりでした。

すぐに予選第1試合の開始。練習は2日間できていませんでしたが、1試合目から先行して得点を重ねることができ、チーム4人が各々の役割を果たし、3勝0敗で予選1位通過。「これなら優勝も夢ではない」と手応えを感じました。競技2日目、決勝トーナメントはどのチームも強敵ばかり。しかし、この日も「攻めるペタンク」でチームの実力を最大限に発揮でき、勝ち上がるごとに調子を上げ、あっという間に最後まで勝ち抜くことができました。目指した「優勝」が現実になりました。チームのメンバーに真っ先に「ありがとう」といい、握手を交わし、皆で喜び合いました。最高の結果で大会を終えることができました。

最後に、関係者の皆様には本当にお世話になりました。心より感謝申し上げます。



優勝できて喜び一杯の笑顔で。(左端)



水 泳 自由形 25m・50m 「岡山県」(選手)

え ぐち あき ひ こ

江口明彦さん

76 歳

● 参加歴：1 回目

初出場のねんりんピック。50 メートルで金メダル！

5 月のある日、仲間からリレー種目でねんりんピック参加の手ごたえありと声をかけられた。リレーの申し込みは叶わなかったが、初のねんりんピック参加となった。大会の存在は知っているが、1988 年から開催されているとは認識不足だった。

岡山駅での結団壮行式から始まった今大会は、2017 年に監督で参加した愛媛県開催の全国障害者スポーツ大会と類似しているところがあり、懐かしく思い出した。

和歌山駅で盛大な歓迎を受け、宿泊地である橋本市へバス移動。和気藹々とした雰囲気の中、夕食を食べながら開会式・競技へと思いを巡らせた。

紀三井寺公園陸上競技場での開会式は実に盛大で、坂本冬美さんの歌に感動した。水泳参加者が数台のバスに分乗して、水泳会場に移動。公式練習で明日に備えた。

宿に着いてからの夕食では、お互いに健闘を誓い合った。私の出場種目は自由形で、1 日目の 50 メートルと 2 日目の 25 メートルの 2 種目だ。

水泳会場での 1 日目は、簡単な開始式で幕開けとなった。私の出番は個人種目の最後、練習プールと応援席とを行き来しながら、出番を待つ。岡山県の仲間も頑張ったが、なかなか上位に食い込めない。高レベルのレー

スが多く見られた。

出番も近くなり招集所へ向かう。レース前の招集所は独特の雰囲気だ。よく参加しているマスターズ大会では、同じチームや同県の選手など顔見知りが多く和やかだ。しかし、ねんりんピックは初出場なので見覚えのある顔はなく、張り詰めた空気が伝わる。不安と緊張の中、スタート台に立ち、あとはいつも通り、スタートからゴールタッチ。振り返って、電光掲示板の「1 位 32 秒 57」を見てほっとした。記録は満足できるものだった。普段の大会では表彰式はないため、久しぶりに観客席目の前の表彰台中央で金メダルを首にかけてもらい、安堵感と充実感に浸った。

2 日目は最初の種目だったので、ウォーミングアップから待ち時間はあまりなく、レースを迎えた。岡山県関係者も応援に駆けつけてくれた。前日に続き金メダルを目指したが、残念ながら

ながら電光掲示板には「2 位 14 秒 73」。トップとわずか 0.17 秒の差だった。表彰式では大学の後輩である和歌山県水泳連盟の南波副会長から、労いの言葉をもらいながら銀メダルを首にかけてもらうサプライズがあった。

家族やいつもの水泳仲間祝福され、記憶に残る大会となった。これからも小学生から高齢者まで、いつもの仲間と楽しく泳ぎ続けたい。



金メダルを胸に喜びがこみ上げる。(中央)



ソフトボール 「あんこうズ60」(監督兼選手)

ごとうせつ お
梧桐節男さん

79歳

●参加歴：3回目

二度目の旗手を務め、高野山に宿泊。最高の思い出に

私は、2009年に開催されたねりんピック北海道・札幌大会のソフトボールに監督として参加し、優勝しました。その後、一度は監督を降りましたが、2018年の11月から監督に復帰し、迎えた令和元年5月、山口県の予選大会で優勝し、和歌山大会参加のキップを手に入れました。北海道・札幌大会で優勝したときとほとんど変わらないメンバーでの出場、令和元年という節目の年に県代表になれたことに非常に感激し、目頭が熱くなりました。10年ぶりの「優勝」を目標に掲げ、チーム一丸となって練習に励みました。

出発日の11月8日がやって来ました。山口県のユニフォームを着て新下関駅の新幹線乗り場で待つ間、期待で胸がときめきます。新大阪に着き、次はバスで和歌山市内のホテルに到着しました。山口県選手団で懇親会をしながらの夕食です。選手全員が和気藹々と過ごし、また他競技の意気込みを聞き、気合が入りました。

翌日、総合開会式の紀三井寺公園陸上競技場に行き、行進の準備をしていると、県旗を渡されました。私が旗手を務めるのです。10年前の札幌ドームでも旗手を務め、一度は経験していますが、前回と違って何となく緊張します。プラスバンドの音と共に行進が始まり競技場に入っていくと、多くの人の声援で一層緊張しました。アトラクションが終わり、監督会議、開始式と忙しい1日でした。

宿泊先は、高野山の成福院でした。お坊さんの修行の場とのことで驚き

ました。食事が来てみれば精進料理。考えもしなかった、驚きの連続でした。

11月10日、交流大会の初日です。1回戦は静岡市との対戦でした。10年ぶりの大舞台でもあり、チームのムードは最高潮でしたが、1つのミスから崩れてしまい、失点。後半、追い上げを見せるも、届かず敗れてしまいました。

11月11日、高野山は雨でしたが、山を下ると試合会場は晴れており、和歌山のチームと交歓試合をしました。投手戦で膠着状態になりましたが、接戦をものにし、1-0で勝つことができました。

和歌山での出来事を振り返ってみると、高野山に登り、成福院に泊まり、精進料理を食べ、寝るときの暖は湯たんぽ。このような経験はなかなかできることなく、人生最高の思い出になりました。

最後になりますが、和歌山県の役員・ボランティアの皆さんには大変お世話になりました。また、山口県社会福祉協議会の事務局の皆さんにもいろいろとお世話になりました。本当にありがとうございました。



チーム全員でガッツポーズ。(後列左から4人目)



剣道 「山口県」(選手)

まつばらとしひろ

松原利広さん

65 歳

● 参加歴：3 回目

苦戦しながらも準優勝！ チーム一丸で勝利を手に

私は今回のねんりんピック紀の国わかやま 2019 剣道交流大会で、選手として3回目の出場となりました。

山口県には60歳以上で結成する「年鈴会（ねんりんかい）」があります。毎年3月頃に、全国ねんりん剣道交流大会の県代表枠をかけて、選手選考会を行います。私は2019年、開催された選考会で優勝し、県代表として和歌山大会への出場が決まりました。

毎月開催している、県剣道連盟主催の稽古日には、年鈴会に所属する剣士が集まり、和歌山大会に向けて稽古（試合）に励んできました。また、近隣県との合同錬成会を行い、お互いに切磋琢磨してまいりました。年鈴会の稽古以外にも、旧武徳殿で行われる、県内各地から集まる剣士との稽古会にも参加してきました。

山口県の年鈴会は平成27年のねんりんピック山口大会から好成績を収めており、今回の和歌山大会での活躍も大いに期待されていました。今回の和歌山大会では、過去、開催県として好成績を収めているチーム2県との予選とな

り、苦戦しながらも、決勝トーナメントにコマを進め、準優勝の栄冠を勝ち取ることができました。これもひとえに4月以降の年鈴会の強化練習はもとより、チームが一丸となり、最後まで諦めずに戦ったことが結果につながったと思います。

大会を通して、地元白浜町のスタッフの皆さんから飲みものなどの「おもてなし」をしていただいたおかげで、気持ちよく試合ができたことに深く感謝を申し上げたいと思います。また、大会前日には地元の白浜温泉に浸かり、身体を癒して試合に備えることができたことで、上位入賞ができたといっても過言ではありません。

今大会により、各県のねんりん剣士の皆さんと剣を交えたことで、「生涯剣道」の意義深さと、剣道の素晴らしさを改めて感じることができました。

最後に、今回の和歌山大会を終え、山口県年鈴会の発展はもとより、全国のねんりんピック剣道交流大会を目指す剣士の皆さんの今後の健康増進と剣道発展を祈念いたしております。



集中して、試合に臨む。(右側)



見事、準優勝を勝ち取り、こみ上げる達成感。(後列中央)



ソフトボール 「藍住GM」(選手)

まつやまとしあき

松山 敏明 さん

65 歳

● 参加歴：1 回目

宿坊に宿泊し、ベスト8に。感謝と感動にあふれた大会

我が藍住GM(グッドメン)シニアソフトボールチームは、15年前に結成された比較的若いチームです。私は入部5年目になりますが、結成された当時はグッドメンだった先輩方も、今やGMの頭にもうひとつGが増えてGGM(爺面)に成長し、身体は動かずとも、口は人一倍動く面倒見の良いGMになっています。

チームは2年前までは内弁慶で、県内では負け知らず。県外に出れば、常時1回戦止まり。試合のあとは観光三昧でした。そこに、新人2名が加入されてから、チーム内の雰囲気がガラリと変わり、全国大会「常負」軍団が、練習も試合も妥協を許さない、常に前を見据えた軍団に変化しました。文句は言わず、相手を敬い、またフォローして試合に臨む、3年前とは180度ひっくり返ったチームになりました。

2018年は四国大会準優勝、全日本シニア大会ベスト8。2019年度は四国大会優勝、全日本シニア大会では2年連続のベスト8。今回のねんりんピック紀の国わかやま2019では、もう少しでベスト4というところで、スリと勝利の女神が抜け落ち、サヨナラ負けを喫しましたが、

3大会連続で全国ベスト8となりました。

私にとって、ねんりんピックははじめての参加でしたが、開会式の壮さ、よく練習されているんだと思う他チームの動き、試合の流れ、どれを取っても、素晴らしいのひと言でした。また、裏方さんの一人ひとりが役割を確実にこなす働きには、感謝しかありませんでした。

また、我がチームに3日間、競技場から高野山宿坊まで同行、応援してくださった方には、最後の別れのときまで笑顔を忘れずに、お世話していただきました。お兄さん、ありがとうございます(お名前を確認せずに申し訳ありません)。

高野山宿坊では、食事から風呂まで修行させていただきました。結果、ベスト8という立派な成績を取められ、これから先、決して贅沢せず、人には優しく、笑顔で接していくことを教えていただきました。

できれば、3年後のねんりんピックの予選を勝ち抜いて、また出場したいものです。最後になりましたが、とくしま“あい”ランド推進協議会事務局の皆様方には、大変お世話になりました。ありがとうございました。



応援してくださった皆さんに感謝。



チームメイトと笑顔で記念撮影。(前列左から2人目)



オリエンテーリング 「徳島県」(選手代表)

ばんどうみつひこ

板東光彦さん

66歳

● 参加歴：1回目

素晴らしい大会運営に感動。今後の競技発展を祈る

徳島県はオリエンテーリングの競技人口が少ない中、各地の大会によく参加している3名がねりんピックに参加いたしました。大会前日は、紅葉真っ盛りの高野山宿坊に宿泊でき、貴重な体験となりました。

大会当日も雲ひとつない素晴らしい天気です。ここでオリエンテーリング交流大会に参加できる喜びを味わいながら、開始式に参加しました。いよいよスタート場所へ移動し競技開始です。

オリエンテーリングには走力だけでなく、地図を読む力が必要となります。私はここ数年、膝の具合が悪くなり、マラソンのような長時間連続して走る運動はできなくなりましたが、地図を読み、ベターなルートを選択することで、走力を補えるところがオリエンテーリングの魅力です。交流大会は、3人を1チームとして3種類のコース（ロング（L）、ミドル（M）、ショート（S））を3人がそれぞれ分かれて回り、タイムの早い順に順位をつけ、ポイント換算すると

いうものでした。徳島チームは（L）を走った女性の松本さんと（M）の板東が6位、（S）の織田さんが9位でした。特に松本さんは全日本大会などで活躍した元トップ選手で、レベルの高い（L）コース参加者の中で女性ポイントの加算もあってラッキーな面もありましたが、合計ポイントで4位となり、優秀賞をいただくことができました。

表彰式までの時間は、地元の特産物を堪能したのち、かつらぎ町の伝統芸能を披露していただき、若い方々が歴史ある素晴らしい伝統芸能を受け継がれていることに感銘を受けました。また、地元の小中学生が作成した応援ポスターに感激しました。

世界遺産も含まれ、オリエンテーリングにふさわしい素晴らしいトレインを準備し、大会を運営して下さった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

また、徳島県選手団の競技結果が、地元紙の地域スポーツ面にオリエンテーリング3名の写真と共に掲載されました。これを機に、この競技に興味を持っていただけたらと思います。

最後になりましたが、参加にあたっていろいろとご支援いただいた、とくしま“あい”ランド

推進協議会の方々に厚く御礼申し上げます。



開会式後。勝利を誓い、ガッツポーズ。(左端)



緊張感に包まれるスタート前。(写真中央)



卓 球 「うどん県香川」(監督兼選手)

み よ し く に お
三 好 邦 夫 さん

70 歳

● 参加歴：3 回目

強豪との戦いに勝ち抜き、人生最高の銅メダルを獲得

「うどん県香川」のメンバーは、2019年3月に行われた県選考会で選出された男女各3名です。3つのクラブから構成されたチームなので、7月から週1回の合同練習をしました。全国大会をはじめ、多くの大会で優勝、活躍されているメンバーがいて、香川県初の金メダルが期待され、気の引き締まる思いでした。合同練習はほとんど試合形式で、いろいろなタイプの方と3、4時間対戦しました。そのおかげか、大会1カ月前には納得のいくプレーができるようになり、不安なく和歌山に行くことができました。

卓球交流大会は、都道府県と政令指定都市66チーム対抗の団体戦で行われます。1次予選リーグ、2次予選リーグを無事1位で通過し、8チームによる決勝トーナメントに進出しましたが、組み合わせ抽選で優勝候補の仙台市と初戦であたることになりました。仙台市は2次リーグで、もうひとつの優勝候補・徳島県に勝ったチーム。決勝まで対戦したくなかった相手でしたが、私が番号を引いたので仕方ありません。しかし、心配をよそに3-1で勝ち、ベスト4になりました。準決勝は富山県と対戦。残念ながら3-2で敗れ、決勝進出はできませんでした。勝敗の流れがかかった私の試合で、中盤、チャンスボールに得意のスマッシュを思い切り放ったところ、いとも簡単に打ち返されました。それから、より厳しいコースを狙いましたが、ミスにつながり、挽回できませんでした。決勝は富山県と福岡市で争われ、福岡市が3-1で勝ち、大会終了。上には上がいるものだと痛感しました。準決勝敗退は残念ですが、優勝候補チームの一員として参加できたことは非常に名

誉で、銅メダルは私の卓球人生で獲得した一番のメダルです。本当にありがとうございました。

私にとって、ねりんピックは最も重要な大会でした。行き届いた運営、雰囲気、地域のおもてなしなど、毎回感心し、ありがたく思います。特に卓球交流大会の競技方法が優れています。リーグ戦が2回あり、すべてのチーム全員が全試合を楽しめます。ミラクルな逆転試合もあり、感動的なシーンもよく見られます。他県の人とも十分交流ができます。ラージボールを楽しむ方は、一度は参加したらよいと思います。

普段、私は高校卓球部OB会会長として、高松市卓球協会主催のオープンダブルス大会を主管しています。最近は健康増進と交流のため、地域の卓球初心者を相手にラージボールを楽しんでいます。



表彰式後。メンバーでベスト4を喜ぶ。(後列中央)

ソフトバレーボール 「UVC宇多津スポーツ協会バレーボール部」
(監督兼選手)

しばたいく お

柴田 郁夫 さん

63 歳

● 参加歴：1 回目

4 度目の挑戦で初出場。見事、準優勝を飾る

ねんりんピックを目指したのは、私が 60 歳となり新チームを結成したときでした。挑んだ初の予選では全勝するもサインミスをしてしまい、競技規定で 3 位。2 年目は決勝戦に進み、あと 1 セット取れば勝利目前のところ、私の足がけいれんで動けなくなり、逆転で敗退。次の年も決勝戦で、進行のジャッジミスもあり、接戦をものにできずに準優勝。もう負けられないと挑んだ 4 度目の挑戦ではプレッシャーの中、思うように試合を運ぶことができず、セット率で何とか予選リーグを通過しましたが、迎えた決勝リーグ戦では見事、全勝で優勝。4 度目にして、やっとねんりんピック参加の代表権を勝ち取りました。

しかし、ここで問題が起きました。12 月にメンバーの 1 人が腹部、翌 1 月にはもう 1 人が膝で手術入院することになり、メンバー 2 人を欠いて、8 月になるまで思うように活動できませんでした。やっと、練習が再開できたのもつかの間。私たちはバレーボールもしていますが、ねんりんピックの大会日程が那覇の全国ヴィンテージ 8's バレーボール交流大会と重なり、やむなく男子 1 名には沖縄のバレーボールに出場してもらうことになりました。急遽 2 名に新規加入してもらい、メンバーを追加登録して、やっとねんりんピックに参加できました。気持ちを切り替え、皆で思いっきり楽しんでしようと臨んだ和歌山大会でした。

開会式前日はお楽しみの 1 ページ、高野山にお参りです。大会を無事に終

えることと、良い報告ができるようにお祈りし、心を清めました。天候にも恵まれ、最高のコンディションでの華やかな開会式に感動して、翌日迎えた競技 1 日目。メンバーは気持ちをひとつにして奮起、弘法大師の御利益か、15 対 1 とあわやパーフェクトとなるスコアも飛び出して、全勝で 1 位通過しました。そして迎えた 2 日目、さすがに各グループで勝ち抜いてきたチームと当たるのですから、そうはうまくいかず、1 試合落としてグループ準優勝となりました。私としては胸の内、負けてちょっぴり悔しい思いもありましたが、顔なじみのチームや、はじめて出会ったチームと和歌山で交流でき、楽しく過ごせて幸せな日々でした。

私たちは今のメンバーでプレーできることに感謝し、趣味を同じくする友と共に、また競い合える日を楽しみに、次の目標に向かって進んでいきたいと思います。



ブラカードを持ち、メンバーと準優勝を喜ぶ。(中央)



弓道 「高知県」(選手)

まつもとゆういちろう

松本祐一郎さん

61歳

● 参加歴：1回目

夫婦で出場、団体3位に。弓道をやっていた良かった！

令和元年5月4日、高知県立弓道場で開催されたこうちシニアスポーツ交流大会2019（ねんりんピックの予選会）に、夫婦ではじめてエントリーしました。妻は女子の部で優勝を果たし、文句なしの予選通過。私は男子4名による射詰競射に勝ち、最後の1枠に滑り込み、幸運にも夫婦でねんりんピックに出場できる運びとなりました。はじめての出場でしたので、夫婦一緒に参加できたことはとても心強かったです。

県代表は、5年前に弓道体験教室から始めた我々夫婦以外、弓道歴何十年というベテランぞろいでした。我々夫婦がチームの足を引っ張ることになってはいけないと思い、大会が始まるまで練習また練習の日々を過ごしました。あとで振り返ると、このときの練習が本大会で実を結んだのだと思います。

高知県のメンバーは全員気さくな方ばかりで、行きのバスからワイワイガヤガヤ、にぎやかで楽しいチームでした。期間中は毎晩全員で酒を酌み交わして意気投合し、1日の反省をして健闘をたたえ、明日の目標を掲げて一致団結し、翌日に備える毎日でした。

高知県チームは予選1日目、参加65チーム中4位タイの好成績で予選突破し、緊張の中にも皆でホッと一息つきました。決勝トーナメント1回戦は、仙台市と対戦。結果は2-1で1回戦突破できました。次は強豪、静岡県。予選をトップ通過、1回戦でも10射8中して勝ち上

がってきたチームでした。誰もが「だめやろなあ」と思っていたようですが、結果は5-4で見事、勝利。

準決勝の相手は愛知県。結果は7-3で敗退して、競技終了。熊本県と共に、団体3位となりました。監督、控え選手2名を含め、8名全員で表彰式に参加でき、記念のトロフィーとメダルをいただきました。いい思い出になりました。

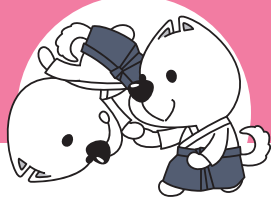
壮大な開会式演出により、県代表という意識が高まり、身の引き締まる思いで、競技に挑むことができました。今大会の弓道競技は選手控場と試合会場が離れており、緊張感を持続し、試合直前の気持ちを安定できるかと心配でしたが、大会運営の方々のタイムリーな招集、きめ細やかな対応に加えて、ボランティアの学生さんの明るい笑顔に助けられて、とてもいい状態で試合に臨むことができました。厚く御礼を申し上げます。

弓道をやっていた本当に良かったと思える大会でした。これからも夫婦で弓道を続けていきます。

最後に、ねんりんピック紀の国わかやま2019、ほんまに楽しかったです。ありがとうございました。



張り詰めた空気の中、試合に臨む。(左から2人目。奥様は中央)



合気道 「岡山市合気道協会」(選手)

おか たつ や
岡 達也 さん

62 歳

● 参加歴：1 回目

合気道開祖生誕の地、田辺市での大会開催に感激

2019 年の春くらいに「ねんりんピックに出場してみませんか」とお話をいただき、年齢も 60 を過ぎて、現在まで 10 年続けている合気道で参加できるということで、うれしく、また楽しくやりきりたいと、期待で胸が躍りました。

今回の大会は和歌山県田辺市開催で、ねんりんピックでの開催は「合気道」としてははじめてと伺いました。

合気道開祖・植芝盛平翁生誕の地である田辺市で開催されることとあわせて、開祖没後 50 周年法要、お墓参りという行事に参加できることが大変うれしく、感動しました。

1 日目の朝 10 時から、全選手による総合開会式に出席しました。立派な競技場で、人数も 1 万人強の参加と聞きました。大規模な開会式で、アトラクションもとてもきれいで華やかでした。その日の夕方、道主を囲んでの交流会にも参加することができ、また、道主にお会いして、ご挨拶させていただき、とても良い経験ができました。

2 日目の朝 8 時 30 分から、開祖のお墓のある高山寺で開祖没後 50 周年法要に参列させていただきました。法要と墓参りを済ませたあと、

田辺スポーツパークで開催されていた田辺農林水産業まつりを見学しました。いろいろな水産物が調理されていて、皆さんと美味しくいただきました。その後、交流大会演武会場である、田辺市の紀南文化会館に移動し、13 時から合気道交流大会演武に出場しました。

合気道には優劣を決める試合がありませんので、演武を披露することになります。演武時間は 1 団体約 2 分でしたが、自分としてはもう少し時間がほしかったです。

演武が終わり、いろいろなお土産をいただきました。地元特産の品々で、ありがたい気持ちでいっぱいです。

翌日、帰路に向かうため、白浜駅へバスで移動しました。この日に限って雨模様で、バスを降り、駅舎まで移動する間、少し濡れましたが、ほかの日は素晴らしい快晴で、何をするのも気持ちよく、すがすがしい天気でした。とても良い大会であったと思います。

今後、また出場のチャンスがあるかわかりませんが、これからも年齢に合った活動をしていきたいと思っています。ありがとうございました。



演武後、メンバーと会場前で。安堵のひとつき。
(後列左から 2 人目)



総合開会式の前にチームメンバーと。(中央)



ソフトボール 「広島クラブシニア」(監督兼選手)

かわなかたけのり

川中武範さん

62歳

● 参加歴：1回目

「さわやかイレブン」、奇跡の準優勝！

誰ひとり予想していなかった決勝戦進出。平静を装うも、緊張感を隠せないメンバー。ゲームは中盤2点を先取したものの、終盤1点差とされ、最終回、投手の継投策で逃げ切りを試みましたが2点をもぎ取られ、痛恨の逆転サヨナラでゲームセット！ 瞬間、悔しさよりも、ここまで6試合、チームワークと気力で戦ってきた「イレブン」に感謝と労いしかありませんでした。表彰式、壇上には11人しかいませんでしたが、本来ならいるはずの2人分のメダルもいただき、この余韻と共に彼らに手渡すことで、一連の流れにピリオドを打ちました。あとは皆がこの結果を誇りに、また、思い出として語っていただければと思います。

私たち「広島クラブシニア」は広島市とその周りに住む仲間によるチームで、毎週日曜日の午後、顔を合わせ、お互いの体調を気遣いながら汗を流しています。練習は「楽しく」をモットーに、でも「試合は多くやろう」と頑張っています。2019年はスタートと同時に、「和歌山に行こう」と意気込みました。しかし、政令指定都市枠では主力選手が参加できず、戦力ダウンのまま予選へ。苦しみながらも突破しました。本番に向け戦略を練るも、決め手がないままに時が過ぎ、参加選手を13名に絞ることが精一杯でした。

出発の2日前、選手の1人が「家庭の事情」で不参加となり、12人で行くことになりました。和歌山に入ってもう1人の選手が体調不良でダウンし、結局

11人となりました。ここから始まった「さわやかイレブン」。1回戦を1-0で勝つと2回戦、3回戦も勝ち、4回戦は相手の好投手に打線が沈黙し、0-3で迎えた最終回。これまでかと思った瞬間、連続安打が出てアツという間に逆転サヨナラ勝ち。準決勝も7-3で圧勝。そして最後の試合、決勝戦に進みました。結果を報告しても誰にも信じてもらえず、疲れ果てた身体を休める間もなく、一路広島へ帰りました。

この経験を今後どのように生かすかという、「たとえ窮地に追い込まれても、やろうと思うことを信じてやれば、結果はあとからついてくる」ことを伝えていくことでしょう。もうひとつ忘れてはいけないのが、何事にも「楽しさ」が大切ということです。これらのことを「和歌山大会」が教えてくれました。

最後に、大会関係者の皆様、特に私たちのチーム担当として、移動からタイムスケジュール、練習、声援などすべてでお世話になった紀の川市職員の田中さんに御礼を申し上げます。



表彰式後、チーム全員の晴れやかな笑顔。(前列右から3人目)